

2019年度

精神障害者スポーツ大会開催事業 報告書

2020年3月

公益社団法人 日本精神保健福祉連盟

目 次

はじめに	
公益社団法人日本精神保健福祉連盟常務理事 大西 守	2
第19回全国障害者スポーツ大会（バレーボール）地区予選会	4
公益社団法人日本精神保健福祉連盟 精神障がい者スポーツ推進委員会名簿	28

はじめに

(公社)日本精神保健福祉連盟常務理事

「精神障がい者スポーツ推進委員会」委員長 大西 守

(公社)日本精神保健福祉連盟では、「精神障がい者スポーツ推進委員会」を中心として精神障がい者スポーツの振興に取り組んできました。その結果、身体障がい者・知的障がい者のみで開催されていた全国障害者スポーツ大会において、平成20年に大分県で開催された第8回全国精神障害者スポーツ大会から精神障害者バレーボールが正式競技になり、三障害合同での開催が実現しました。

さらに、令和元年度から、精神障害者卓球が新たに加わることになりました。したがって、令和元年度においては、精神障害者バレーボールは全国6ブロックにおいて予選会を兼ねた精神障がい者バレーボール・ブロック大会が予定通り開催されました。また、精神障がい者卓球に関しては都道府県において選出された男女各1名が参加準備を進めてきました。

ところが、令和元年10月12日から14日まで、茨城県で開催予定だった第19回全国障害者スポーツ大会が台風19号の影響を受けて急遽中止となってしまいました。参加予定だった選手・スタッフはもちろん、長期にわたり開催準備を進めてきた地元茨城県関係者にとっても非常に残念な事態となりました。

今後も、自然災害や感染症などの多発が懸念されるなか、障がい者スポーツの運営・危機管理などに関して多くの課題がつけつけられたと考えます。

パラリンピック東京大会開催に向けて、障がい者スポーツも関心が高まっています。さらに、パラリンピック東京大会以降の長期的展望を見据えていくことが重要で、皆様の一層のご協力をお願いする次第です。

令和2年3月

第19回全国障害者スポーツ大：団体競技バレーボール（精神障害）
北海道・東北ブロック大会予選会視察報告書

報告年月日令和元年6月8日

報告者日本精神保健福祉連盟精神障害者スポーツ推進委員会 委員名 井上誠士郎

1. 大会の概要

1) 大会目的

第19回全国障害者スポーツ大会に出場する北海道・東北ブロック代表チームを決定するとともに、スポーツを通じた心身の健全な成長と、社会参加の推進を図ること。

2) 大会名称

第19回全国障害者スポーツ大会バレーボール競技（精神障がい者の部）北海道・東北ブロック予選会

3) 大会開催日時

令和元年6月8日（土）

4) 大会開催場所名称・住所

猪苗代町総合体育館「カメリーナ」（福島県耶麻郡猪苗代町字鶴田141-2）

5) 主催者

福島県、公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会

6) 共催：なし

7) 競技主管団体

8) 協賛：なし

9) 協力・後援等

<協力>福島県バレーボール協会、猪苗代町家庭バレーボール協会、猪苗代町スポーツ推進委員会、猪苗代町カメリーナスポーツクラブ、福島県障がい者スポーツ指導者協会

<後援>猪苗代町

10) 選手の参加資格

(1) 参加選手は次の全ての条件を満たす者とする。

ア平成31年4月1日現在、13歳以上の精神障がい者で、以下(イ)～(ロ)のいずれかを大会事務局に提出した者。

(イ) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条の規定により、精神障害者保健福祉手帳（以下「手帳」という。）の写し。ただし、手帳の交付を受けている者で、手帳の更新・紛失等により写しを添付できない者は、「精神保健福祉センター所長の精神障害者保健福祉手帳交付済に関する証明書」の写しをもって手帳の交付を受けている者とみなす。なお、大会申込日と大会日程が受給者有効期間内あるいは受給更新予定期間内であること。

(ロ) 自立支援医療（精神通院）受給者証の写し。なお、大会申込日と大会日程が受給者有効期間内あるいは受給更新予定期間内であること。

(ハ) 自立支援医療を利用せず精神疾患のために精神科医療機関に通院をしている者は通院証明書（対象者の住所・氏名・性別・生年月日・精神疾患名・通院頻度・最終通院日を通院医療機関の主治医が証明年月日とともに署名捺印）の原本。なお、証明年月日は平成31年4月1日以

降であること。

(注)手帳の交付を受けている者は(ア)による手続きを優先すること。また、手帳の交付を受けていない自立支援医療受給中の者は(イ)による手続きを取ること。自立支援医療を受給していない通院者に限り(ウ)の手続きを取ること。

イ参加する道県・政令指定都市内に現住所を有する者。ただし学校に通学している者及び施設に入所・通所している者は、その学校及び施設の所在地の道県・政令指定都市でも参加できるものとする（学校又は施設の長による在籍証明書の原本を大会事務局に提出した場合に限る）。

(2) 参加するチームは、ブロック内の道県・政令指定都市の代表1チームとする。

11) 競技運営(競技規則)

適用する競技規則は、(公財)日本障がい者スポーツ協会制定「全国障害者スポーツ大会競技規則」及び本大会競技実施要領とする。

12) 大会運営事務団体(名称・住所)

公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会

住所〒960-8670 福島県杉妻町2番16号(福島県庁文化スポーツ局スポーツ課内)

TEL024-521-7875 FAX024-521-7879 メールsports@pref.fukushima.lg.jp

13) 大会事務局担当者名(連絡先:住所・TEL・FAX):

福島県福島市杉妻町2番16号

福島県企画調整部文化スポーツ局スポーツ課 主査末永勝弘

TEL (024) 521-7875 (内線5196・5197) FAX (024) [521-7879メールsports@pref.fukushima.lg.jp](mailto:sports@pref.fukushima.lg.jp)

2. 競技の進行枠組み

1) 競技プログラム(日程・時間)

8:30開会準備

8:50受付開始

9:10監督会議

9:40選手団整列

9:25開会式

司会は福島県文化スポーツ局スポーツ課舟山真吾氏

1) 主催者あいさつ…福島県文化スポーツ局スポーツ課長・尾形幸男氏

2) 選手宣誓…福島県チーム・高橋義之選手

3) 事務連絡

10:15競技開始

14:45閉会式

1) 成績発表・表彰…尾形幸男氏

2) 公表…福島県バレーボール協会・遠藤慎二審判長

3) 閉会のあいさつ…公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会・若松伸司理事

15:00全日程終了

2) 大会の障害の種別

精神障害単独開催

3) 対戦表

結果と合わせ添付

4) 「精神障害者の部」の参加都道府県市

青森県、秋田県、岩手県、福島県、山形県、宮城県以上6県（6チーム）

5) 参加者数（主に精神障害者関係）

選手数：59名

指導者：16名（監督・コーチ・マネージャー登録者）

審判団：8名

補助員：35名（線審など役員、地域のボランティア）

本部・運営：9名

観客数：30名

3. 競技の進行状況と具体的な内容

1) 監督会議・内容

審判控室にて。福島県文化スポーツ局スポーツ課長・尾形幸男氏の挨拶の後、福島県バレーボール協会・遠藤慎二審判長から、ルール確認、試合進行上の注意点（試合開始11分前から練習・3分前にコートへ）、挨拶・握手の仕方など、詳細に説明あり

2) 開会式・内容

2-1) 「競技プログラム」に記載

3) 競技日程の対戦の内容と結果令和元年6月8日（土）

試合はAコート・Bコートの2面で、同時進行で行われた

10:15～

Aコート第1試合（1回戦）：青森県－山形県

Bコート第1試合（1回戦）：福島県－岩手県

11:15～

Aコート第2試合（準決勝）：青森県－宮城県

Bコート第2試合（準決勝）：岩手県－秋田県

12:30～

Aコート第3試合（交流戦）：山形県－福島県

Bコート第3試合（3位決定戦）：秋田県－宮城県

13:30～

Aコート第4試合（決勝戦）：青森県－岩手県

4. 大会の最終結果（1位：全国障害者スポーツ大会参加チーム）

1位 青森県

2位 岩手県

3位 秋田県

5. 次年度・次年度以降のブロック大会の開催予定（決めかた：わかる範囲で5年先ぐらいまで）

開催県選定方針

令和2（2020）年度から令和7（2025）年度までの予選会の開催県については、下表の順によるものとする。なお、令和8年度（2026）年度以降の開催については、令和7（2025）年度の開催県が調整役となり、ブロック内の各県で協議の上で決定する。

令和2（2020）年度	宮城県・仙台市
令和3（2021）年度	秋田県
令和4（2022）年度	岩手県
令和5（2023）年度	山形県
令和6（2024）年度	福島県
令和7（2025）年度	青森県

6. 大会主催者、関係者との意見交換・状況

1) 大会運営・主催者等の意見・意見交換内容

会場である猪苗代町総合体育館「カメリーナ」は、郡山駅からJRで40分、車でも同等の時間を要し、東北各県からのアクセスは決して良いとは言えない。この理由として、当初、主催側としては福島市内の体育館を使用する予定だったが、2020東京オリンピック・パラリンピック関連事業での使用が優先されたことがある。しかしながら猪苗代町は冬季スポーツ・地域スポーツが盛んな地域で、今大会においても地元のスポーツ団体（1－9）〈協力〉参照から多くの協力が得られ、運営はスムーズであり、助かっている。北海道・東北ブロック予選の開催地は5年分まとめて決めるが、今年がその5年目なので調整作業を要した。

2) 審判団の意見・意見交換内容

コート内・外・応援席が一体となり、スポーツ本来の姿を見せてもらった。出場チームのみなさんに感謝したい。

7. ブロック大会視察者の感想、意見、その他のコメント

出場チームは昨年の山形大会とほぼ同じ顔ぶれだった。全チームの関係者もしくは選手から話を伺うことができた。各県の全般的な傾向としては、県大会への出場チームはほとんどが精神医療保健福祉関連施設を母体としており、数としては減少傾向（とくに秋田、山形、福島）である。ちなみに、仙台市は今回不出場（理由は不明）で、札幌市は全国を目指すチームがなくなったため、予選が開催されなかった。競技意欲の高い選手たちは、医療の場でスポーツをするのではなく、スポーツの場を求めるようになってきている。ハイレベルな戦いとなった決勝戦の2チーム（青森、岩手）が、ともに医療機関を母体としていないチームであることは象徴的であった。以下、各チームから聴取した内容を報告する。

○青森県は、10チームでの県大会を勝ち抜いた「ワンダジ」が出場。ワンダジとは、津軽弁で“われわれ”の意味。利用する医療機関に関係なく、バレーボールを目的に集まった地域クラブである。他のスポーツと掛け持ちする選手も多い。

○岩手県は、盛岡市のふれあいランドを拠点として活動する「やんべスピリッツ」が出場。当事者のみで構成されているチームで、選手の半数が就労している。練習は月2回程度。チーム名の“やんべ”は「適度にやる」という意味。選手たちの盛岡近郊ばかりでなく、県内各地から集まって来るため、移動にかかる時間と経費の負担は大きい。あとはとにかく一緒にやる仲間が欲しい。岩手県障がい

者スポーツ協会の三浦氏にサポートしてもらっているとのこと。

- 秋田県は、社会医療法人興生会横手興生病院が運営する地域生活支援センター「のぞみ」が出場。県予選は7チームが行われたが、出場チームは年々減少傾向にある。
 - 宮城県は、岡本台病院のデイケアチームが出場。他に出場チームがないため、予選なしでの出場。病院の経費でバスをレンタルしての遠征。
 - 山形県は、社会医療法人公徳会トータルヘルスクリニック（南陽市）のデイケアチーム。前年9月に8チームで行われた県大会で優勝しての出場。法人内に体育館があるのが強みだが、優勝した青森県と1回戦で対戦し敗退。交流戦では福島県と対戦したが、1-2で敗退し、勝ち星を挙げることができなかった。
 - 開催地である福島県は、一陽会病院（福島市）「デイケアハウスハーモニー」のチームが出場。県予選は3チーム。かつての県大会は20チーム程で争われたが、出場チームの減少が著しい。
- 北海道・東北ブロックについてまとめると、1) 主催は県が持ち回り、2) 県予選出場チームは減少傾向、2) ブロック大会出場チームは固定化、3) 個人間・チーム間での競技レベルの差は広がる傾向にある。この傾向が続くならば、全国大会は競技能力の高い一部の精神障害者だけが目標にする大会になる可能性がある。より多くの精神障害者が主体的にスポーツを続け、スポーツの価値を享受する環境の実現を目指すならば、より広く競技を普及させる工夫も必要そうである。



【北海道・東北ブロック 写真】

第19回全国障害者スポーツ大：団体競技バレーボール（精神障害）
関東ブロック大会予選会 視察報告書

報告年月日 令和元年5月25～26日

報告者 日本精神保健福祉連盟 精神障害者スポーツ推進委員会 委員名 鎗田 英樹
勝嶋 雅之

1. 大会の概要

- 1) 大会目的：第19回全国障害者スポーツ大会リハーサル大会は、第19回全国障害者スポーツ大会「いきいき茨城ゆめ大会」（2019年10月12日～14日）の開催に備えて、競技運営、審判技術の向上を図るとともに、大会に対する県民の理解と関心を高めるため実施する。
- 2) 大会名称：第19回全国障害者スポーツ大会「いきいき茨城ゆめ大会」リハーサル大会
- 3) 大会開催日時：令和元年5月 25日(土) 9：30～17：00
26日(日) 9：00～17：00
- 4) 大会開催場所名称・住所：松戸体育館／ひたちなか市松戸町2丁目6-1
- 5) 主催者：
茨城県、水戸市、日立市、結城市、常陸太田市、取手市、つくば市
ひたちなか市、一般社団法人茨城県身体障害者福祉団体連合会
一般社団法人茨城県身体障害者福祉協議会、茨城県肢体不自由父母の会連合会
社会福祉法人茨城県視覚障害者協会、一般社団法人茨城県聴覚障害者協会
一般社団法人手をつなぐ育成会、一般社団法人茨城県心身障害者福祉協会
一般社団法人茨城県精神保健福祉会連合会、社会福祉法人茨城県社会福祉事業団
社会福祉法人茨城県社会福祉協議会、茨城県障がい者スポーツ指導者協議会
茨城県特別支援学校長会、茨城県障害者スポーツ・文化協会、公益財団法人茨城県体育協会
- 6) 競技運営主管団体：
一般財団法人茨城県陸上競技協会、茨城県水泳連盟、茨城県アーチェリー協会、
茨城県卓球連盟、茨城県ボウリング連盟、茨城県障害者フライングディスク協会
茨城県バレーボール協会、一般社団法人茨城県バスケットボール協会
茨城県ソフトボール協会、公益財団法人茨城県サッカー協会
- 7) 特別協賛 大同生命保険株式会社
- 8) 協賛：
①大会パートナー 17社
②オフィシャルスポンサー 15社
③オフィシャルサポーター 70社
④オフィシャルサプライヤー69社
⑤大会協力企業 30社
- 9) 協力企業・団体： 10団体
- 10) 選手の参加資格： 記載なし
- 11) 競技運営(競技規則)：2019年度に適用の全国障害者スポーツ大会競技規則（公益財団法人日本障がい者スポーツ協会制定）によるもののほか、要綱に定めるところによる。
- 12) 大会運営事務団体：茨城県 国体・障害者スポーツ大会局 障害者スポーツ大会課

〒310-8555 茨城県水戸市笠原町 978 番 6

電話：029-301-5396 FAX：029-301-5389

13) 大会事務局担当者名：障害者スポーツ課 橋本央司氏（主事）

電話：029-301-5409 Mail：h_hashimoto@pref.ibaraki.lg.jp

2. 競技の進行枠組み

1) 競技プログラム（日程・時間）

受付： 9：30

監督会議： 9：55

開会式： 10：35

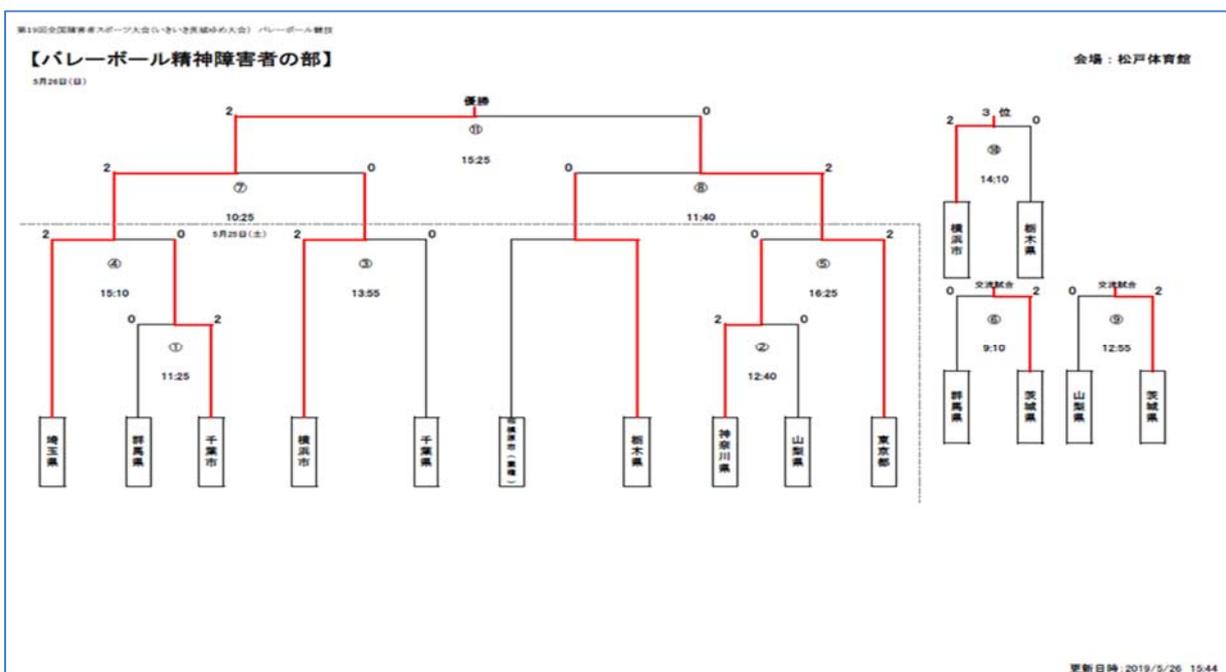
競技時間： 11：25

閉会式： 16：35

2) 大会の障害の種別（精神障害単独開催か、知的等の障害と開催か）

大会会場では精神障害者バレーボールのみ実施。

3) 対戦表



4) 「精神障害者の部」の参加都道府県市

栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、千葉市、東京都、神奈川県、横浜市
相模原市（棄権）、山梨県、茨城県（開催県） 計10都道府県

5) 参加者数（主に精神障害者関係）

選手数：初日・113名、2日目・112名

指導者（精神障害競技のみ）：初日・26名、2日目・23名

審判団：初日・97名、2日目・106名

本部・運営：初日・31名、2日目・37名

地域のボランティア：初日・15名、2日目・14名

観客数：初日・94名、2日目・110名

3. 競技の進行状況と具体的な内容 :

1) 代表者会議・内容

定刻通り実施。試合時間の遅いチームは監督のみ会場入りし監督会議に参加しており、2日目から参加となるチーム以外は出席していた。ルールに関する質問は少なく、競技としてほぼ浸透している様子。また運営再度より給水タイムの実施およびコートオフィシャルの紹介について提案があり、承認された。

2) 開会式・内容

定刻通り実施。学生ボランティアが持つプラカードに従って整列し、滞りなく行われた。

3) 競技日程の対戦の内容と結果

【5月25日(土曜)】

第1試合	●群馬県	VS	○千葉市	0-2
第2試合	○神奈川県	VS	●山梨県	2-0
第3試合	○横浜市	VS	●千葉県	2-0
第4試合	○埼玉県	VS	●千葉市	2-0
第5試合	●神奈川県	VS	○東京都	0-2

【5月26日(日曜)】

第6試合	●群馬県	VS	○茨城県	0-2	
第7試合	○埼玉県	VS	●横浜市	2-0	準決勝
第8試合	●栃木県	VS	○東京都	0-2	準決勝
第9試合	●山梨県	VS	○茨城県	0-2	交流戦
第10試合	○横浜市	VS	●栃木県	2-0	3位決定戦
第11試合	○埼玉県	VS	●東京都	2-0	決勝

3位決定戦： ○横浜市 VS ●栃木県 2-0

決勝戦： ○埼玉県 VS ●東京都 2-0

4. 大会の最終結果(1位：全国障害者スポーツ大会参加チーム)

1位 埼玉県

2位 東京都

3位 横浜市

5. 次年度・次年度以降のブロック大会の開催予定(決めかた：わかる範囲で5年先ぐらいまで)

ブロック大会の開催の決定方法：関東ブロック検討会にて決定

【開催地】

- ・2020年度：山梨県
- ・2021年度：神奈川県
- ・2022年度：栃木県
- ・2023年度：東京都
- ・2024年度：群馬県

6. 大会主催者、関係者との意見交換・状況

1) 大会運営・主催者等の意見・意見交換内容

- ・当日多忙とのことで、意見聴取出来ず。その後、メールおよび電話にて意見交換を行ったが、特になしとのことであった。

2) 審判団の意見・意見交換内容

- ・意見交換の機会を得られず未実施。

7. ブロック大会視察者の感想、意見、その他のコメント

リハーサル大会と言うこともあり、非常に手際の良い運営であった。開会式等の予行練習も入念に行われており、滞りなく運営されていた印象。また試合前のウォーミングアップに多くの時間を割いており、初日の試合開始も11時15分開始かつ5試合のみという、ゆとりのある運営であった。しかしながら、その結果2日間での開催ということもあり、中には2日分の遠征費用を捻出できず、自己負担の増大と言った課題も見られた。



【関東ブロック 写真】

第19回全国障害者スポーツ大会：団体競技バレーボール（精神障害）

北信越・東海ブロック大会予選会 視察報告書

報告年月日 令和元年6月2日

報告者 日本精神保健福祉連盟 精神障害者スポーツ推進委員会 委員名 水島 仁

1. 大会の概要

- 1) 大会目的：第19回全国障害者スポーツ大会いきいき茨城ゆめ大会に出場する北信越・東海ブロック代表チームの選考
- 2) 大会名称：第19回全国障害者スポーツ大会いきいき茨城ゆめ大会北信越・東海ブロック予選会
精神障害者バレーボール競技
- 3) 大会開催日時：令和元年6月1日（土）～6月2日（日）
- 4) 大会開催場所名称・住所：聖籠町総合体育館 新潟県北蒲原郡聖籠町諏訪山1280
- 5) 主催者：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、公益社団法人日本精神保健福祉連盟精神障害者スポーツ推進委員会
- 6) 共催：
- 7) 競技主管団体：新潟県障害者スポーツ協会
- 8) 協賛：公益財団法人JKA
- 9) 協力・後援等：新潟県スポーツ協会、スポネットせいろう、新潟県障がい者スポーツ指導者協議会
- 10) 選手の参加資格：

大会に参加できる選手は(1)-(5)に該当する者とする。

- (1) 年齢は平成31年4月1日現在で13歳以上の者。
 - (2) 精神保健および精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条により、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた者。あるいはその取得の対象に準ずる障害のある者。
 - (3) 申し込み時に参加する県・指定都市に現住所（住民票のある地）を有する者。ただし学校に通学している者および施設に入所・通所している者は、その学校および施設の所在地の県・指定都市でも参加できる者とする。
 - (4) 全国障害者スポーツ大会開催基準要綱細則3(1)②に規定する北信越・東海ブロックの県および指定都市チーム。
 - (5) 大会出場に際して、特に健康上問題のない者。
- 11) 競技運営(競技規則)：
 - 12) 大会運営事務団体（名称・住所）： 新潟県障害者スポーツ協会
新潟県新潟市江南区亀田向陽1-9-1 新潟ふれ愛プラザ内
 - 13) 大会事務局担当者名(連絡先：住所・TEL・FAX)：
同上 事務局長 長谷川 寿史氏 TEL 025-383-3610, FAX 025-381-1478

2. 競技の進行枠組み

- 1) 競技プログラム（日程・時間）
6月1日(土)

開会準備・集合

受付 9:00-

監督会議 11:00-11:30

開会式 11:45-12:00

競技時間 13:00-17:10

6月2日(日)

開会準備・集合 7:30-

競技時間 9:30-12:15

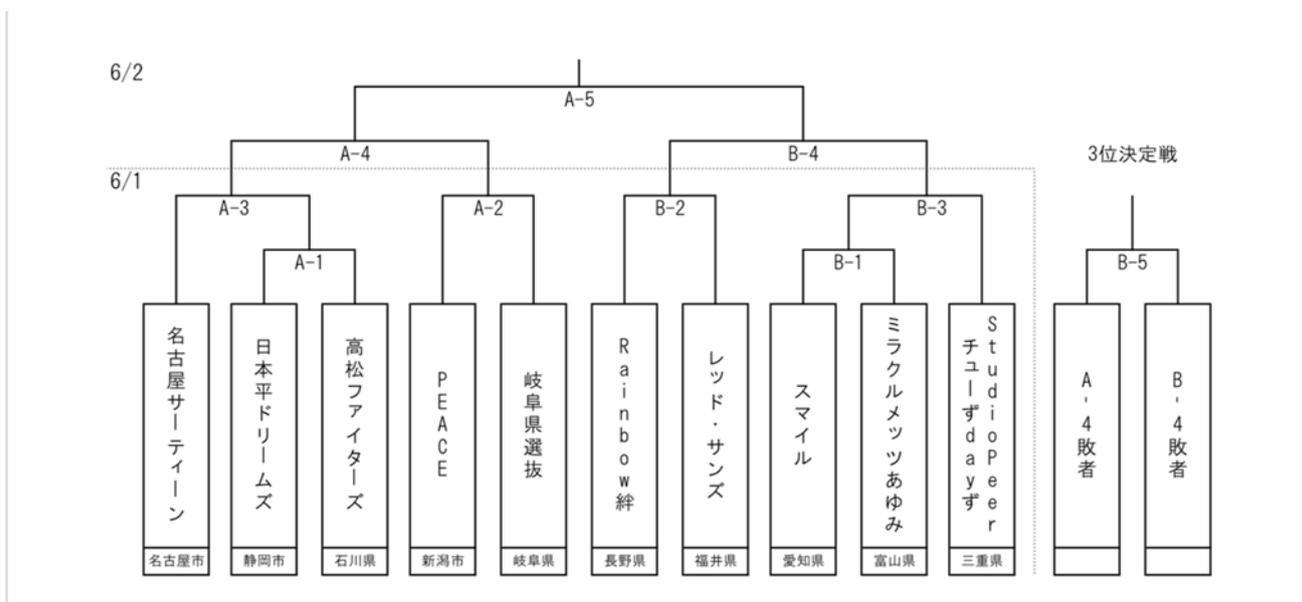
(決勝戦・3位決定戦 11:00-)

閉会式 12:25-12:35

片付け

2) 大会の障害の種別 (精神障害単独開催か、知的等の障害と開催か) 精神障害単独開催

3) 対戦表



4) 「精神障害者の部」の参加都道府県市

名古屋市、静岡市、石川県、新潟市、岐阜県、長野県、福井県、愛知県、富山県、三重県

5) 参加者数 (主に精神障害者関係)

選手数、96名 (10チーム)

指導者 (精神障害競技のみ) 監督・コーチ合わせて 20名、マネージャー8名

審判団 11名 (新潟県障害者スポーツ協会)

線審など役員 スポネットせいろう、新潟県障がい者スポーツ指導者協議会

本部・運営 新潟県障害者スポーツ協会

地域のボランティア

観客数：50名

3. 競技の進行状況と具体的な内容 :

- 1) 代表者会議・内容
- 2) 開会式・内容
- 3) 競技日程の対戦の内容と結果 6月1日(土曜)～2日(日曜)
 - 第1試合 石川県 2-1 静岡県、愛知県 2-1 富山県
 - 第2試合 新潟市 2-0 岐阜県、長野県 2-1 福井県
 - 第3試合 名古屋市 2-0 石川県、三重県 2-0 愛知県
 - 第4試合 名古屋市 2-1 新潟市、長野県 2-1 三重県
- 3位決定戦 三重県 2-1 新潟市
- 決勝戦 名古屋市 2-0 長野県



聖籠町総合体育館の入り口



2日間、熱戦が繰り広げられた

4. 大会の最終結果 (1位：全国障害者スポーツ大会参加チーム)

- 1位 名古屋市
- 2位 長野県
- 3位 三重県

5. 次年度・次年度以降のブロック大会の開催予定 (決めかた：わかる範囲で5年先ぐらまで)

ブロック大会の開催の決定方法：現時点では未定。今後調整とのこと。

再来年度は全国障害者スポーツ大会が三重県で開催のため、北信越・東海ブロック大会予選会も同様に同県で開催予定とのこと。

6. 大会主催者、関係者との意見交換・状況

1) 大会運営・主催者等の意見・意見交換内容

- ・本来予定していた静岡市、浜松市の2チームのキャンセルが出て、全10チームの参加となった。
- ・近年、チーム作りが困難となっている県・都市も多くなってきている。
- ・特に地方の場合、選抜チームを作ろうにも合同練習を行うために車で2時間要するケースもある、と。
- ・同様に今回のように新潟県で開催の場合、東海地方からの大会参加は距離的に困難である。
- ・来年に迫った東京オリンピック・パラリンピックだが、精神障害者競技部門は関係がないため、大きなムーブメントにはなっていない。また、地方都市に東京の熱の波及はあまり感じない。

- 2) 審判団の意見・意見交換内容
特になし

7. ブロック大会視察者の感想、意見、その他のコメント

- 1) 昨年は関東ブロックの視察を担当しましたが、北信越・東海ブロックは関東ブロックにも勝るとも劣らないぐらい活気がありました。会場にチーム応援のバナーが複数垂れ掛けられ、さらにはスティック・バルーンやメガホンでの熱のこもった応援がありました。3位決定戦の新潟市 vs 三重県は第2セットが大接戦となり、29-27 で後が無い三重県がセットを奪い返し、フルセットにもつれ込み、その勢いで三位になりました。大会運営部の新潟県の職員も本部で最後は応援に夢中となっていました。
- 2) 大会に権威付けをすることができればと思います。例えば、決勝戦を始める前に「これから、決勝戦を始めます、お互いに礼」のような感じで。あとは、特に表彰状などが無いのであれば3位決定戦は廃止して、センターコートで決勝戦を行い、参加した選手で応援するという形はいかがでしょうか。また、これは予算の関係で難しいかもしれませんが、閉会式でも表彰状だけでなく、メダル授与や個人賞（敢闘選手賞など）があっても良いと思います。
- 3) 今後の競技の拡がりや選手生活をどれだけ長く続けられるか気になるので、選手の年齢もプログラムに記載いただけると良いと個人的に思いました。

第 19 回全国障害者スポーツ大会団体競技バレーボール精神障害者
近畿ブロック大会予選会 視察者報告書

報告年月日 令和 元年 6 月 2 日(日)

報告者 日本精神保健福祉連盟 精神障害者スポーツ推進委員会 委員 高畑 隆

1. 大会概要

1) 大会目的

第 19 回全国障害者スポーツ大会に出場する団体競技チームについて、近畿ブロック予選会を実施し、代表チームを選抜することを目的とする

2) 大会名称

第 19 回全国障害者スポーツ大会 精神障害者団体競技
バレーボール競技近畿地区予選会

3) 大会開催日時

令和元年 6 月 2 日(日)

4) 大会開催場所

兵庫県立障害者スポーツ交流館

5) 主催： 公益社団法人日本精神保健福祉連盟

6) 主管： 公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会

7) 協力： 兵庫県バレーボール協会

8) 協賛： 株式会社モルテン

9) 参加資格

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和 25 年法律第 123 号）第 45 条の規定により、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた者、あるいはその取得の対象に準ずる障害のあるもので、年齢 13 歳(平成 31 年 4 月 1 日)以上の者。

10) 競技運営

競技規則については、平成 31 年度「全国障害者スポーツ大会競技規則(財団法人日本障害者スポーツ協会編)」及び別に定める実施要領によるものとする。

1 1) 大会運営事務団体：

兵庫県健康福祉部障害福祉局ユニバーサル推進課 高田

神戸市中央区下山手通 5 丁目 10-1

(078) 362-3237 FAX 078-362-9040

1 2) 大会事務局担当者(連絡先)

公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会事務局

2. 競技の進行枠組み

1) 競技プログラム (日程・時間)

開会準備・集合 8:30~

受付 9:00~9:30 各チーム代表 *各チーム代表者

開会式 9:40~9:55 *9:35 に整列

競技時間 第1試合ウォームアップ 10:05~10:10

試合 10:10~11:00 *Aコート、Bコート

第2試合ウォームアップ 11:05~11:10

試合 11:10~12:00 *Aコート、Bコート

第3試合ウォームアップ 12:55~13:00

試合 13:00~13:50 *Aコート、Bコート

第4試合ウォームアップ 13:55~14:00

試合 14:00~14:50 *Aコート

閉会式 15:00~15:15

片付け等 15:20~16:20

*試合の進行状況に応じて開始時間が変更になる場合があります・

2) 大会の障害の種別 (精神障害単独開催か、知的等の障害と開催か)

精神障害単独での開催

3) 対戦表



4) 「精神障害者の部」参加都道府県市

滋賀県 (3(女子1)+10(女子2):平均年齢?+40歳)、京都府(3(1)+12(3):平均37歳+43歳)、大阪府(2(1)+11(3):平均45歳+36歳)、奈良県(3(2)+6(1):平均30歳+48歳)、和歌山県(3(1)+10(3):平均45歳+44歳)、兵庫県(3(3)+11(1):平均?+36歳)京都市(3+12(4):平均38歳+38歳)、神戸市(3+8(1):平均?+53歳)、計8府県市

5) 参加者数 (主に精神障害者関係)

選手数 約 $12 \times 8 \div 8 = 80$ 人

指導者 (精神障害競技のみ) $12 \times 3 \div 3 = 25$ 人

審判団 兵庫県バレーボール協会 (理事、競技・審判員) 29名

線審など役員 障害者スポーツ指導員 11名

母連ティア 9名、看護学生 10名

本部・運営 7名

観客数: 約20

3. 競技の進行状況と具体的な内容

1) 代表者会議・内容 なし

2) 開会式・内容

開会宣言 兵庫県健康福祉部障害福祉局長 羽原好一

挨拶 公益社団法人日本精神保健福祉連盟理事 高畑隆

協力団体紹介 兵庫県バレーボール協会、株式会社モルテン(ボールの協賛)

競技・審判委員長(競技説明)

3) 競技日程・対戦の内容と結果 6月2日(日曜)

対戦は各チーム代表者の抽選ではなく、大会本部に一任での厳正な抽選によって決定した

■第1試合 Aコート 10:10 和歌山県対滋賀県

和歌山県は黒の上下のユニフォームで和歌山国体に参加したチームの選手が多い、朝6時に集合してバスでの参加である。身長は高い選手は少ない、基礎はできているが地域的に対戦相手がいないので、職員との練習試合や、選手の2-3名がほかのチームに参加しての練習である。滋賀県は、青のユニフォームで滋賀県でのブロック大会開催時の選手もいるチーム。リベロの選手が1名いるが身長の高いセッターの方がいないが声は出ている。和歌山県はネットミスが目立つ、相手の声に押されている。滋賀県は始め良く動く、声が出てチームポーズを決める。ミスが少し出て一時引き離されるが盛り返し1セットを滋賀県がとる。2セット目は、滋賀県のブロックとアタック、フェイントの波に乗り、勝つと「ワッショイ」と声とポーズで盛り上げる。またリベロが雰囲気盛り上げる。両チームともに粘り、少しもつれたりもする。

1セットは12対25で滋賀県、2セットは15対25で、セットカウント0対2で滋賀県が勝ちあがる。

■第2試合 Bコート 10:10 神戸市対京都府

神戸市と京都府は両チームとも普通の服装傾向にビブスでの対戦である。開始前の審判との打ち合わせで時間がかかる。神戸市はなかなかサーブが入らなかつたりもする。京都府は長身の選手もいるがサーブが入らなかつたりもする。両チームともバレーボールを3で時々返すが、1人で返してしまうことがあり、基本の練習を一定期間指導者の下で行うと良い。また、声あまり出ない試合でもある。

1セットは16対25で京都府、2セットは25対22で神戸市、3セットにもつれ込んで23対25で、セットカウント1対2で京都府が勝ち上がる。

■第3試合 Aコート 11:10 兵庫県対京都市

兵庫県もユニフォームが身につけて基礎練習ができている。長身の選手が5名(女子2名)就労促進センターのチームである。チームのまとまりは良いが、あまり大きな声が出ない。勝つと拍手を皆でする。サーブの上手な選手もいるが、徐々に京都府に引き離される。京都市はユニフォームの色合いも良く準備運動は手馴れていて、長身の選手7も男子5だけでなく女子2もいる。ランニングサービスでの打ち込み、動きも軽く良く声が出ている。

1セット16対25、2セット13対25で、セットカウント0対2で京都市が勝ち上がる

■第4試合 Bコート 11:10 大阪府対奈良県

大阪府はユニフォームも黄色と黒の2色で長身の選手が2名いる、サーブ時に前衛でネット際に3人が並ぶ、そしてランニングサービスで打ち込む。良く動き声も皆よく出ている。奈良県は、ビブスでの参加で選手数がなんとかそろえ、チームを編成しての参加で地区大会に来たようである。身長が高い人はいなく、何とかレシーブしているともいえる。

1セット 25 対 3、2セット 25 対 5 で、セットカウント 2 対 0 で大阪府が勝ち上がる。

昼食 12:00~13:00

★準決勝★

■第5試合 Aコート 13:00 滋賀県対京都府

滋賀県はユニフォームが身につけていて長身の選手はいないがまとまりがあつて、よく声を出しオーソドックスに基本で戦うチームである。京都府はビブスで、1回で相手に返してしまう。先取して1セット目は頑張るが、抜かれてしまう。

1セット 25 対 21、2セット 25 対 8 で、セットカウント 2 対 0 で滋賀県が勝ち上がる。

■第6試合 Bコート 13:00 京都市対大阪府

京都市は、本部に同じグループでの対戦かを事前に確認してきた。良く動き、声が出るチームである。抜かれても粘って頑張るが、大切な時にミスが出てしまう。ネットぎわでブロックをして、よく拾い追いつがる。大阪府は、応援も大きな声で盛り上げ、チームも良く声が出ている。ランニングサービスをする。時々ミスが出たりもする。アタックが強く、勝つと大きな声で盛り上げる。お互いに激しい打ち合いで決勝戦のような激戦となる。

1セット 21 対 25、2セット 20 対 25 で、セットカウント 0 対 2 で大阪府が勝ち上がる。

★決勝戦★

■第7試合 Aコート 14:00 滋賀県対大阪府

滋賀県は身長の高いアタッカーがいないが、丁寧に拾って頑張っていくが、大阪府のアタックやパワーに押し切られてしまう。セットカウント 2 対 0 で大阪府が優勝する。

3位決定戦 なし

決勝戦 滋賀県対大阪府

4. 大会結果 (1位:全国障害者スポーツ大会参加都道府県名)

1位 大阪府

2位 滋賀県

3位 京都市及び京都府

5. 次年度・次年度以降のブロック大会の開催予定について (わかる範囲内で5年先ぐらまで)

ブロック大会の開催の決定方法:

障害者スポーツ協会・各行政との間で一応の開催順は決まっている

次年度開催地:大阪市の予定(市参加チーム状況等で開催地変更の可能性もある)

事務局:事前に今回の大会を視察にきた。 主催者: 大会会場: 日程案:

次年度以降の開催予定地:

(*今後の開催順は、たぶん大阪市・和歌山県・奈良県・滋賀県・大阪府・京都府の順と思われる)

6. 大会主催者、関係者との意見交換・状況

1) 主催者との意見・意見交換から

事務局は兵庫県健康福祉部障害福祉局(3)と公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会(4)である。

大会だけを見ると精神障害のチームは健常者のチームと遜色しない側面がある。より重度の精神障害の方が参加できる競技やチーム作りも望まれる。障害者の高齢化と重度化が言われている。そこで例えば、E スポーツは指だけでできるので、重度の方々の参加する競技としての可能性があると思われる。大会主催の兵庫県チームの基礎は十分にできている。試合慣れ等の実践慣れ、勝負のカンなどの力量を上げていきたい。また、県全体での選抜チーム作りができるのも良いかもと。

2) 審判団の意見・意見交換内容等

兵庫県バレーボール協会の審判団によって審判が行われた。まとまりが良い女性の審判団で、昼休み時間には2グループに分かれて練習し合いのプレーを楽しく行っていた。審判団の服装は全員上が半そで白、下が紺の長ズボンである。

7. ブロック大会視察者の感想、意見、その他コメント

体育館は明石駅や西明石駅からバスで約15~20分程度の場所にある。兵庫県の障害者等に関する施設が一堂に集まっているエリア(更生相談所、リハビリテーション病院、入所施設、職業訓練、生活支援等)の中にある体育施設である。アリーナは、バレーボールコート2面を配置している。選手のウォーミングアップや練習場所を設置できるスペースはない。観客席は片側にある。参加チームへのプログラムの冊子だけではなく、スタッフマニュアルの冊子を詳細に作成しています。スタッフマニュアルでは、会場の配置状況の移動、スタッフの詳細な役割が、見える化し提示している。従って、当日に運営側に参加される方が誰でも分かるように非常に丁寧で、詳細な冊子が準備されていた。従って、大会運営が円滑にできるように事前準備されていて、丁寧な大会運営が行われていた。

暑い状況での熱中症対策には1セットの途中15分で給水タイムを設けている。試合の流れは、昼食は休憩時間を1時間充分にとっており、選手が十分に午後の試合に向けて休憩できる。また、3セットにもつれ込んだ時の時間調整も昼の時間で可能である。本大会は予選会なので、試合に負けると1試合で終了する。交流試合ではないので特に交流戦は配置していない。

参加したチームではまだまだビブスで、ブロック大会に参加する府県・政令市のチームがある。また、長期的に精神障害のスポーツ大会の運営やチーム作りに寄与するには、各府県内での競技団体(精神障害バレーボール協会)作り及び、府県全体の代表である選抜チーム作りへの機運は、どのチームもあまり見られないと思われる。参加府県・政令市代表各チーム指導者は、バレーボール上級指導者というよりは精神保健福祉関係者がチーム指導を行っていると思われる。



【近畿ブロック 写真】

第19回全国障害者スポーツ大会団体競技バレーボール精神障害者
中国・四国ブロック大会予選会 視察者報告書

報告年月日：令和元年6月5日

報告者所属・氏名：精神障害者スポーツ推進委員会 委員 田所 淳子

1. 大会概要

- 1) 大会正式名称：第19回全国障害者スポーツ大会バレーボール競技（精神障害者の部）中国・四国ブロック予選会
- 2) 大会開催日時：令和元年5月18日（土）～19日（日）
- 3) 大会開催場所：善通寺市民体育館（香川県善通寺市金蔵町398-6）
- 4) 主催者：香川県、香川県障害者スポーツ協会
- 5) 共催：公財）日本障がい者スポーツ協会、（公社）日本精神保健福祉連盟
- 6) 競技主管：香川県バレーボール協会
- 7) 協力：香川県障がい者スポーツ指導者協議会
- 8) 後援：香川県教育委員会、善通寺市、善通寺市教育委員会、香川県精神保健福祉協会
- 9) 大会運営事務団体・担当者：香川県障害者スポーツ協会 担当 松下、三井
- 10) 参加都道府県数；参加チーム 鳥取県、島根県、岡山県、山口県、徳島県、愛媛県、高知県、広島市、岡山市、香川県の10県市（広島市のみ参加なし）
- 11) 参加人数：鳥取県（選手8名、監督等4名）、島根県（選手10名、監督等4名）、岡山県（選手10名、監督等4名）、山口県（選手7名、監督等4名）、徳島県（選手12名、監督等4名）、愛媛県（選手11名、監督等3名）、高知県（選手11名、監督等4名）、広島市（選手8名、監督等4名）、岡山市（選手12名、監督等4名）、香川県（選手13名、監督等4名）
- 12) 従事者：スタッフ（知的・精神両競技の従事者） 各日 香川県障害者スポーツ協会3名 香川県庁1名、香川県障害者スポーツ協会13名 香川県バレーボール協会13名
学生競技補助者（知的・精神両競技の従事者）：18日 高校15名、高松大学8名 19日 香川高専20名
- 13) 一般観客者数：知的・精神両競技観戦客18日約30名、19日約30名

2. 競技会状況・試合の進捗状況

1回戦、2回戦

- ・多くのチームが、基本的動作やプレーは十分ではないが、どのチームも一生懸命プレーしている。
- ・リベロを擁しているチームは少ない
- ・ほとんどのチームが県市名の入ったユニフォームを着用している。

●準決勝

Aコート 広島市対岡山市

広島市は初戦で愛媛県に競り勝ち、高揚気分で準決勝に臨んだ。しかし1セット目はデュースにもつれ込み、27-25で岡山市が勝つ。2セット目は調子に乗った岡山市が逃げ切り決勝に進んだ。

Cコート 高知県対島根県

1セット目は高知県が危なげなく先取する。2セット目は調子が出て来た島根県とサーブミスが多い高

知県。デュースにもつれ込み、点の取り合いを重ね31-29で何とか高知県が逃げ切り決勝に進んだ。

●決勝戦

Cコート 岡山市対高知県

序盤は高知県の調子がよくリードしていたが、岡山市も調子を上げて相手をよく見た攻撃をしてくる。高知県は守備の穴が見られ、中盤からは岡山市がリードした展開になった。高知県の追い上げもままならず岡山市が1セット目を先取する。2セット目も波に乗った岡山市が終始、3,4点のリードをする展開になった。岡山市は高知県のブロックの間を抜くアタックを決める。途中、高知県にとってはネット際の不運や、岡山市が大きくはじいたボールの返球も岡山市の運のツキもあり、最後は岡山市が逃げ切って勝利した。岡山市は初の全国大会出場。

3. 大会の結果；一位 岡山市 二位 高知県 (三位決定戦はせず)

4. 次年度以降について

- ①令和2年度は山口県で開催。事務局は山口県障害者スポーツ協会。
- ②開催地の決定方法：中国・四国ブロック障がい者スポーツ指導者協議会において協議し、ブロック大会開催地を決定している。知的障害バレーボール予選大会との合同開催が多い。

5. 大会代表者会議（監督会議）の状況

- ・代表者会議では近年、プレーやルールに関する質問が出るのが少なく、それだけ各縣市チームの競技そのものに関する周知が進んだ、とも言える。
- ・半面、もっぱらユニフォーム等に関する質問が多く、今回も同様で、ユニフォームや身体装着に関する質問がほとんどであった。
- ・当日に欠席する選手が続出した。やはり病状の不安定さ、障害特性から来る脆弱性、社会力の弱さからくるものもあるのでは、と推測される。

6. その他、全体の感想

- ・1回戦で負けたチームが「交流戦は棄権して帰県したい」と申し出があり、交流戦を急遽、組み替える土壇場があった。多くのチームは「負けても交流戦をしたい」と言うが、中には「早く帰りたい」というチームもある。
- ・前述のチーム以外にも「閉会式に参加せず早く帰県したい」というチームがあり、閉会式に参加するチームが少なく、貧相な状況で大会の閉めになる。



【中国・四国ブロック 写真】

第 19 回全国障害者スポーツ大会バレーボール競技(精神の部) 九州ブロック地区予選会報告

公益社団法人日本精神保健福祉連盟「精神障がい者スポーツ推進委員会」委員長 大西 守

令和元年 5 月 19 日に福岡県久留米市の久留米アリーナ・メインアリーナにおいて、第 19 回全国障害者スポーツ大会バレーボール競技(精神の部)九州ブロック地区予選会が開催された。

主催は、(一社)福岡県障がい者スポーツ協会、(公社)日本精神保健福祉連盟で、共催が(公財)日本障がい者スポーツ協会、九州地区精神障害者スポーツ推進連絡協議会、主管は第 19 回全国障害者スポーツ大会バレーボール競技(精神の部)九州ブロック地区予選会実行委員会が担当した。

当日は曇天ながら、それほど暑くもなく、まずまずの天候であった。沖縄県、鹿児島県、宮崎県、長崎県、熊本県、大分県、佐賀県、北九州市、福岡市、福岡県の 10 チームの参加となった。政令市になって間もない熊本市以外のすべての県市からの参加であり、精神障害者バレーボールがすっかり定着した観がある。また、福岡市バレーボール協会の協力による審判団、中学生、大学生のボランティアなど地元密着型での運営である。

監督会議、開会式(大西守主催者挨拶など)に引き続き、3 面を使つての試合開始となった。

とくに事故や怪我もなく、無事終了できたことは多いに評価される。なお、栄えある優勝は福岡県、準優勝は鹿児島県、三位は佐賀県だった。

関係者の話として、一部の地域ではバレーボールコート確保が難しいこと、就労する選手が多くなり練習時間が限られるなどの意見が聞かれた。

また、卓球競技が全国障害者スポーツ大会の正式競技になったのは嬉しいが、誰が引率するかなど関係者の戸惑いの声もあることも報告された。

**第19回 全国障害者スポーツ大会団体競技バレーボール精神障害者
ブロック地区予選会開催結果**

ブロック	開催地	開催日・会場	優勝	準優勝	3位
北海道・東北	福島県	令和元年6月8日(土) 猪苗代町総合体育館「カメリーナ」	青森県	岩手県	秋田県
関東	茨城県	令和元年5月25日(土)～26日(日) 松戸体育館(ひたちなか市)	埼玉県	東京都	横浜市
北信越・東海	新潟県	令和元年6月1日(土)～6月2日(日)2日間 聖籠町総合体育館(新潟県)	名古屋市	長野県	三重県
近畿	兵庫県	令和元年6月2日(日) 兵庫県立障害者スポーツ交流館	大阪府	滋賀県	京都市 京都府
中国・四国	香川県	令和元年5月18日(土)～5月19日(日)2日間 善通寺体育館(香川県)	岡山市	高知県	島根県 広島市
九州	福岡県	令和元年5月19日(日) 久留米アリーナ(福岡県)	福岡県	鹿児島県	佐賀県

精神障がい者スポーツ推進委員会委員名簿

令和2年3月現在

委員長 大西 守	公益社団法人日本精神保健福祉連盟 常務理事	〒108-8554 東京都港区芝浦3-15-14
事務局長 高畑 隆	一般社団法人全国精神保健福祉連絡協議会 理事	〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学グリーンケア研究所内
委員 阿部 裕	四谷ゆいクリニック 院長	〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町2-23 京都荘ビル1F
委員 井上誠士郎	特定医療法人朋友会 石金病院 外来医長	〒001-0930 北海道札幌市北区新川714番地2
委員 岡村 武彦	医療法人大阪精神医学研究所 新阿武山病院 院長	〒569-1041 大阪府高槻市奈佐原4-10-1
委員 勝嶋 雅之	一般社団法人日本作業療法士協会	〒111-0042 東京都台東区寿1-5-9 盛光伸光ビル7階
委員 河本 次生	埼玉県立精神保健福祉センター 社会復帰部 復職支援担当	〒362-0806 埼玉県北足立郡伊奈町小室818-2
委員 瀬川 聖美	社会福祉法人 本郷の森 银杏企画 施設長	〒113-0033 東京都文京区本郷5-25-8 香川ビル
委員 田所 淳子	高知県 女性相談支援センター 精神保健福祉士	〒780-8015 高知市百石町2-34-8
委員 早川 幸男	一般社団法人日本精神科看護協会 業務執行理事	〒108-0075 東京都港区港南2-12-33 品川キャナルビル7階
委員 水島 仁	立川病院 精神神経科 医長	〒190-8531 東京都立川市錦町4-2-22 国家公務員共済組合連合会 立川病院
委員 鎗田 英樹	帝京平成大学 健康医療スポーツ学部作業療法学科 講師	〒290-0193 千葉県市原市うるいど南4-1
顧問 中森 邦男	公益財団法人日本障がい者スポーツ協会 日本パラリンピック委員会委員長参事	〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町2-13-6 常和水天宮ビル3F

【オブザーバー】

伊東 秀幸 田園調布学園大学 人間福祉学部 教授

白木原 市次 北里大学教学センター事務室 総合体育館トレーナー室 スポーツ指導員

2019年度 精神障害者スポーツ大会開催事業 報告書

発行日 2020年（令和2年）3月

発行者 公益社団法人日本精神保健福祉連盟
会長 鮫島 健

発行所 公益社団法人日本精神保健福祉連盟
〒108-8554 東京都港区芝浦3-15-14
日精協会館内
TEL 03-5232-3308 FAX03-5232-3309